

札幌屯田防犯パトロール隊（北海道）

活動地域

札幌屯田防犯パトロール隊の隊長を務めております、札幌の松山千春、さらには相田みつを、こと松井と申します。よろしくお願ひしたいと思ひます。

札幌屯田防犯パトロール隊、屯田の「とん」、そして防犯の「ぼ」を採って、通称「とんぼ隊」と申します。私たちの住む屯田は札幌の一番北外れに位置しまして、人口3万7,500人、世帯数で1万5,500世帯と。人口もここ20年で2倍に膨らんだ住宅街であります。古くから住んでいる方と新しい世代が同居する住宅地であります。

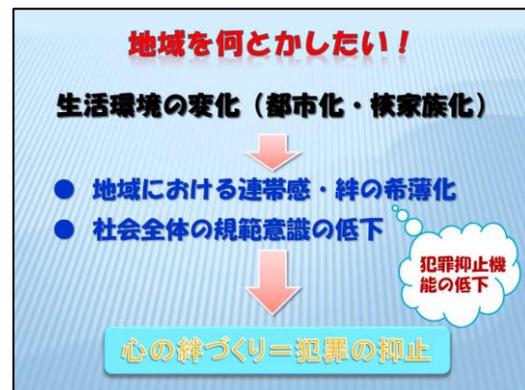


団体の概要

とんぼ隊の発隊のきっかけには私の思いがありました。地元で商売をさせていただいているので、地域に何らかの恩返しをしたい。そして自分の子供におやじの背中を見せたいということで、PTA役員を引き受けました。PTA活動で学んだことは、とても勉強になりました。屯田地域の犯罪の多さや犯罪が低年齢化していることも知りました。親の責任のなさや先生の姿勢、生徒の姿も見ることができました。また人口の増加に伴い、地域の連帯感、絆意識が希薄化し、見て見ぬふりをする大人が多くいることも知りました。PTAを3年間で退任するときには、満足感ではなく不安感が残りました。

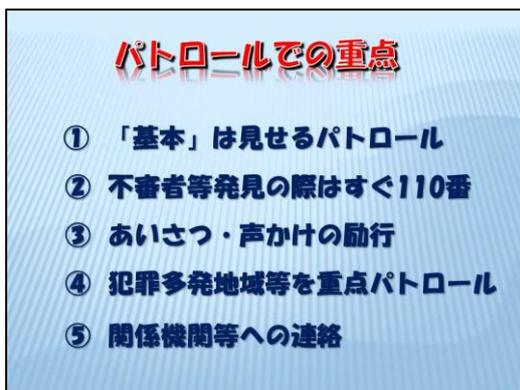
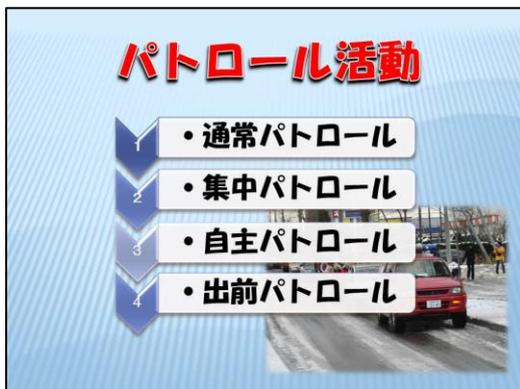
近年は都市化・核家族化が進み、生活環境が変化し地域における連帯感や絆意識が薄れ、社会全体のモラル・規範意識が低下していることで、犯罪の抑止機能まで低下してしまっています。

私たちが子供だったころは、地域には、平等に怒ってくれたり注意してくれたりした怖いおじさんがいました。自然と地域の大人たちが子供たちを見守っていたと思います。それならば、昔のおじさんのように声を掛け合い、見守ることで昔の環境を創れば良い、



地域の絆が生まれお互いを思いやることで、その結果、犯罪や事故も減るのではないかと
いうことで、私の思いを形にしたのがとんぼ隊であります。

活動の概要



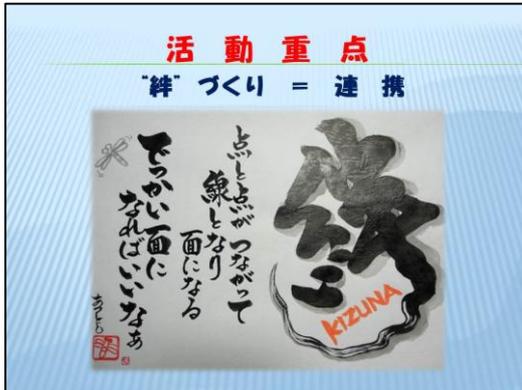
制服を作り、隊則も整備して、平成16年9月に設立しました。とんぼ隊の合言葉は、「地域が家族のように」です。地域が家族のような絆で結ばれれば、罪を犯す人も、事故を起こす人も減るのではないかという発想です。現在は隊員数80名、年齢構成は22歳から80歳、青色回転灯装着車両が15台で活動を行っています。

活動は主としてパトロール活動です。通常パトロールは、あらかじめ決められた日時・場所に集合し、回転灯装着車両でパトロールします。下校時間帯や深夜の時間帯に行っております。集中パトロールは、事件発生や学校・警察等からの依頼で、不審者が出たときなどに、発生時間帯・場所を集中的にパトロールします。自主パトロールというのは、隊員自らできる時間、できる範囲でパトロールを行います。出前パトロールとは、地域を仕事で走る車にとんぼ隊の

ステッカーを貼って、仕事をしながら見せるパトロールを行います。これらの活動を組み合わせると、365日何らかの形でパトロール活動が実施されているわけです。

パトロールの重点は、見せるパトロール、そして不審者発見の際にはすぐに110番をすることです。あいさつ、声掛けを励行し、犯罪多発地域等を重点的にパトロールします。割れ窓理論というのがありますけれども、いかに地域の環境が整備されているかが重要です。特に夜回るときに街灯の球切れを点検し、切れているものを発見したら役所に随時連絡しています。

活動の重点は絆づくり、連携



とんぼ隊の活動の重点は絆づくりです。警察、行政や学校、団体等と常に連携し、パトロール隊活動以外にさまざまな活動を行っています。学校や保育園での防犯講話は警察や学校と連携して行っています。連合町内会と地域の各種団体等で構成する屯田地区コミュニティネットワーク会議と連携して屯田地区防犯サミットを開催しました。町内会で、学校で、各団体でできることなどが話し合わせ、地域全体で見守り活動が本格化しました。また、地域住民の防犯意識を高める狙いで、大人向け、子供向けと2日間にわたる防犯フォーラムを開催し、警察から講師を招いて、町内会や婦人部、コンビニ等と連携し、コンビニ強盗訓練や護身術訓練を実施しています。

高校生との連携では、とんぼ隊からの声掛けに学校が応えてくれて、有朋高校パトロール隊を立ち上げていただきました。とんぼ隊で作った子供向けの「いかのおすし」の紙芝居、老人向けの「振り込め詐欺」の紙芝居を高校生が上演をしてくれています。関係機関や団体と連携することで、さまざまな活動が可能になりますし、それまでは地域のおじさんお婆さんの活動だったのが、地域のお兄さんお姉さんが加わることで、まさに「地域が



家族のように」になりました。

連携はまだあります。屯田地域の道路を除雪する共同企業体に、冬期間、除雪の作業中に防犯の目を光らせてもらおうと、除雪機械やパトロールカーなどの作業車両に隊のステッカーや防犯の旗を付けていただき、活動をしてもらっています。また、除雪センターやオペレーターの待機場所であるモータープールなどを緊急避難場所として開放してもらっています。これらの活動を広く周知するために、除雪関係者、警察や行政、連合町内会や防犯協会、屯田地区内の全ての学校関係者にも同席をいただきまして、とんぼ隊と共同企業体合同の出陣式を毎年開催しています。この出陣式に先立ちまして、除雪機械による事故を防止するために近くの保育園の園児を招き、除雪機械体験試乗会を開催し、実際に重機に乗ってもらって機械の大きさや死角を確認してもらい、悲惨な事故を防ぐ、そん



な活動もしています。一粒で2度も3度もおいしい企画をさせていただいております。

地元の商工会と連携して、安全・安心のぼり旗を作製しました。商工会の加盟店や各学校、とんぼ隊の自宅の前などに設置をして安全・安心を呼び掛けています。これも住民に広く伝えるために、設置式を開催し啓発のパレードなどを行っております。



また、情報発信ということで、住民が利用する地区センターの玄関、これに不審者・犯罪発生マップというのを設置して、どこでどんな犯罪が発生したか、一目で分かるようになっていいます。これらのとんぼ隊の活動は、各報道を始め、地元の広報誌やミニコミ誌でも掲載をさせていただいております。



北海道ハーレー警ら隊とも連携し、メッセージ交換イベントを行っています。これは小学生が交通事故に遭ったことをきっかけに、子供たちの願いをメッセージに託してもらい、それを北海道ハーレー警ら隊が預かり、函館の小学校に届けます。今年で6回目を数え、会ったことのない友達のことを思って、それぞれメッセージに気持ちをつづり、交換することによって、絆が結ばれてきました。

ハーレー警ら隊とは、私の趣味がハーレーで、趣味でも社会貢献ができるのではないかと平成

19年に立ち上げました。活動は、地域安全活動・交通安全活動・青少年健全育成活動。現在は札幌・函館・旭川、3市に拠点を設けて、制服を身にまとった51人の隊員が各イベント等で全道各地で活動を行っています。このような活動のほかにも、マラソンの先導を務めたり、自分たちの技量向上のために安全運転講習などを開いたりしています。

活動の効果と今後の課題

書を通じて、読んでもらって考えてもらって、絆づくりや防犯活動・交通事故防止を訴えることができるのではないかと思います。実はこれは私が書いていますが、パトロール隊の活動や仕事、普段の生活を通じて思ったことについて私が考えていたことを書きつづっております。警察や行政と連携し、北海道庁さらには市役所を始め、防犯や交通安全イベントでも全道あちこちで展示をさせていただいています。特に振り込め詐欺被害防止のために、銀行や郵便局にこの書を贈り、ATM近くで被害防止の最後の砦として掲示をさせていただいています。

また全道各地に呼ばれて講演したり、テレビやラジオで活動を発表させてもらったりしています。これらの活動が認められ、北海道はもとより内閣総理大臣賞を始め、警察庁長官、全国防犯協会連合会会長等、多くの賞を頂きました。

今後は、とんぼ隊で培った絆づくりを全道に広めようということで、本年5月、北海道や北海道警察に協力を得ながら、北海道“絆”menづくりプロジェクトを立ち上げ、代表を務めさせてもらうことになりました。menというのは、点と点が繋がって線になり、面になるの面と、人間の複数形のmenを掛けて名付けたものです。犯罪や事故は個人の考え方や感情によって起こるものです。思いやりの心を育て絆が結ばれることで、犯罪や悲惨な事故は減少するのではないかと。まずは犯罪をさせない人間づくり、犯罪をさせない環境づくりが大切であると思います。

このプロジェクトは、企業の社会貢献の一環として、まずは企業の従業員や家族との絆を深め、従業員から犯罪者や事故当事者を出さない。企業が、絆ステーションとしてさまざまな情報を共有し地域に発信する。行政や警察と連携し、絆づくりに係るさまざまな活動を行うというものです。



子供たちの未来のために、心を伝えるために、思いやりの心で絆の輪を広めていけば、きっと安全で安心なまちづくりができるものと信じ、これからも頑張っまいります。ご清聴、誠にありがとうございました。

質疑応答

●質問 活動の内容がすごく幅広く、びっくりしました。活動経費は、どう捻出されているのでしょうか。

○回答 とんぼ隊については、隊員による年会費で賄っております。参加するに当たっては1,000円とか2,000円の範囲で入会金もいただいています。北海道ハーレー警ら隊は年会費3,000円ですが、北海道交通安全協会から10万円の助成を去年からいただいております。